

「新潟島は宝島!? 歴史的建造物の魅力再発見!」の展開

小林 隆幸

活動の発端

平成二十二年一月二十四日に、新潟市まちなか再生本部による「まちなか再生フォーラム」が開催され、再生本部アドバイザーで建築家の隈研吾氏が「都市再生の姿へ担うべき役割と機能」と題した基調講演を行いました。そこで同氏は都市再生のキーワードとして、①歴史・伝統の再発見、②川や海、丘など自然や地形を生かす、③箱物などのハードからソフトへの転換の三つを強調しました。つまり、同氏は歴史・伝統の再発見がこれからの都市再生にとっても有効であることを示したのです。

指摘にあったように都市再生へもつながっていくのではないのでしょうか。そうした思いからこの活動が始まりました。

文化庁支援事業の採択を得る

文化庁では、美術館・博物館が行う事業に対する支援を行っています。特に今では経済環境の悪化や指定管理者制度の導入など、館を取り巻く環境も変化していることから、文化庁の支援目的は、社会の変化に対応して館の事業の方向性を変えていくための基盤整備を図ることに変化してきました。そして、地域連携の強化、地域文化資源の整備活用、ミュージアム支援地域人材育成、国際交流拠点形成に関する事業が、その支援対象になっています。これを受け、当館でも地域連携の強化、地域文化資源の整備活用を主な目的に、活動のエリアを館外へ広げた事業の展開を図るため、文化庁平成二十二年美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業に申請しました。そして、その採択を得て、歴史的建造物を一般公開している施設と協力し合い、市民自らが地域の宝である歴史的建造物の魅力を探る活動を展開しました。

活動の展開

現存する歴史的建造物を地域の宝と見立て、事業名を「新潟島は宝島!? 歴史的建造物の魅力再発見!」と名付けて市民参加を募りました。

まず、活動の皮切りとして、七月三十一日に専門家による講演会を開催しました。講師は長岡造形大学教授の平山育男氏と新潟大学准教授の岡崎篤行氏の二名です。平山氏からは「新潟の近代建築を造った人々」との題で、新潟の近代建築の建設に貢献した大倉喜八郎や内山熊八郎、大友弘、清水組、長谷川龍雄等の功績やエピソードについてお話ししていただきました。また、岡崎氏からは「歴史的建造物を活かしたまちづくり」と題した講演で、新潟が川湊であることの重要性や花街の現存状況においては他都市より優位であるなどの指摘をいただきました。

講演会によって新潟の歴史的建造物についての知識と問題意識を高めたうえで、八月二十八日・九月四日・九月二十五日には、それぞれ下町エリア・西大畑エリア・白山エリアの三つにエリア分けした建物の現地見学を行いました。数多く残されている歴史的建造物の



建物見学会

中から、対象とした建物は、見学や展示施設として一般に公開され、誰もが気軽に訪れやすい十一の施設に限定しました。参加した延べ七十二人の市民がそれぞれの目線で建物の魅力や価値を抽出し、それを各自が「建物見学参加者記入シート」に記録しました。

新潟税関庁舎や旧第四銀行住吉町支店など歴史的建造物があります。そうした建物の価値や魅力に多くの市民が気づき理解されれば、歴史的建造物は誰もが認める地域の宝とされます。光を放ち、そこに暮らす人々の心の糧ともなるのではないのでしょうか。そして、隈氏の

さらに、これらの成果をまとめるにあたっては、見学会参加者によるワークショップを開催し、先述の記入シートを持ち寄って内容を集約しました。そのうえで参加者の中から代表者を選び、その方々を中心に最終的にまとめ上げました。



ワークショップ

そして、成果は市内関係各所でパネルによって紹介するとともに、年明け後の一月十五日には、クロスパルにいがたを会場に事業報告会を開催しました。まず、建物見学会で案内役を務めてくれた元新潟市文化財保護審議委員の山崎完一氏を講師に「新潟市の歴史的建造物の保存と活用―具体的な事例をもとに―」の題で講演をしていただき、続いて参加者代表としてまとめ役を買って出てくださいました岩間正吉さん・井越勝義さん・保坂芳樹さんに、それぞれ下町・西大畑・白山エリ

アの建造物について成果報告をしていただきました。大雪で悪天候の中、八十二人が会場に駆け付けてくれました。

今回の活動では、建物の価値や魅力を探し、その成果を取りまとめて発表するまでの一連の作業を市民の参加者を実施していただきました。それによって、ただ建物の価値や魅力を知るだけでなく、それをほかの人に発信できるようになることを目標にしたのです。ほかの人に伝えられるようになれば、それは活きた知識になることでしょう。また、伝える人ができれば、新潟の魅力が語れる人材が生まれたとも言えるでしょう。これまでの一連の作業には、そうした期待が込められています。そしてもう一つの期待が、活動に参加できなかった市民に対しての効果です。活動に直接参加しなかった市民も、特に専門家ではない、自



事業報告会

分たちと同じ地域に暮らす様々な価値観をもつ人たちが見つけた価値や魅力であれば、活動の成果に共感しやすく、同じ目線で活動の追体験ができるのではないのでしょうか。

こうした活動の経緯や成果は、『新潟島は宝島!? 歴史の建造物の魅力再発見!』の冊子にまとめました。この冊子は事業報告書であり、かつ、ここで取り上げた十一の歴史的建造物を紹介するガイドブックでもあります。執筆には報告会で発表した参加者代表三名のほか、金子政子さん、武内貞夫さんの二名が関わってくれました。この冊子は関係者・機関に配布し、在庫がある限り希望者に無料で頒布しています。この冊子を通じて、これまで知っていたようで気付かなかった歴史的建造物の魅力を、多くの方々に感じとっていただきたいと思っています。



事業報告書

期待される活動の効果

今後期待される活動の効果をまとめると次の四点があげられます。

- ① 歴史的建造物の価値や魅力が市民に広く深く認知されることにより、建造物を地域の歴史・文化・観光資

源として定着させ、その活用が促進できる。

- ② 今回の活動は歴史的建造物を公開している各施設と市民の協力に基づいており、これを機に、施設同士また施設と市民との新たな連携が期待できる。

- ③ 参加した市民、活動の成果を共有した市民の中から、歴史や文化をはじめ地域の魅力を発信する人材が生まれる。

- ④ これをきっかけに、さらに多くの建物に魅力発見の視線が広がっていくことが期待される。

なお、本事業で連携した施設は当館のほか次の通りです。新津記念館、北方文化博物館新潟分館、新潟県政記念館、新潟大学旭町学術資料展示館、砂丘館、燕喜館、安吾 風の館。また活動に際しては、市内の歴史的建造物の管理・運営に携わる新潟市歴史文化課および文化政策課の協力を得ました。そして活動には、事業に賛同してくれた多くの市民をはじめ、旧齋藤家別邸の会、萬代橋ファイン倶楽部、新潟大学旭町学術資料展示館友の会、新潟市歴史博物館ボランティアの方々も参加してくれました。

最後に、多くの方々のご協力を得て本事業が実施できましたこと、あらためてお礼申し上げます。

(こばやし たかゆき 学芸員)